



# 気になるあの人に チューモク!! ①

## アンダー 棒高跳びで U20 日本新記録を樹立! めざすは東京オリンピックの大舞台

たなか れな  
田中 伶奈さん(高瀬町・18歳)



長さ4メートルを超えるポールを手に、助走のスピードに乗って力強く踏み切り、遥か頭上のバーを越える。棒高跳び選手の田中伶奈さんは、2018年にまさに飛躍を遂げました。去る10月19日には、20歳未満の選手が競うU20日本選手権で4メートル11の記録を出し、U20日本記録と日本高校記録を塗り替えました。さらに、その1週間後の大会で、記録を1センチ更新した4メートル12を跳びます。高校1年生からの目標だった高校記録の更新。3年生の最後

のシーズンに実現しました。「これまで練習してきたことを出し切ろうと意識して跳びました。ずっと目標としていた高さを跳べてうれしかったです」  
田中さんが棒高跳びを始めたのは高瀬中学校2年生のとき。それまでは幅跳びを専門にしていたが、「棒高跳びも面白そう」と思い、挑戦しました。観音寺第一高校に進学したすぐは幅跳びの練習も続け、2年生から棒高跳びに専念。しかし、3年生になる直前の3月に脚をけがして、5月までの2ヶ月間は跳躍の練習ができなかったと言います。そんなときも、持ち前の前向きさで気持ちをプラスに切り替えてきました。

「けがをしたり、記録が伸びないときは、次のステージのために必要な時間だと考えて、その時でできることをしていきました」  
けがを乗り越えたあとは、指導を受ける先生のアドバイスから、体の使い方をより意識した練習に取り組みました。

その結果、8月のインターハイでは優勝を勝ち取り、良い流れのまま、U20日本新記録の樹立へ。  
田中さんに棒高跳びの魅力を尋ねると、「ポールを使って跳んだときに、普段は見られない景色を見られることです」と笑います。高校卒業後は大学へ進学して、棒高跳びを続けるそう。



▲12月3日、市長に表敬訪問し、U20日本新記録を出したことを父親の輝彦さんとともに報告

「来年の東京オリンピックに出場するのが大きな目標です。そのために今年には日本記録の4メートル40を跳んで、参加標準記録の4メートル50に近づけたと思います。伸びしろはまだあります」  
毎日の練習で着実に力を高めたいと、将来を見据えた意気込みを語ってくれました。

明けましておめでとう  
ございます。昨年も四季折々、市内各地の行事を取材させていただきました。さまざま活動があつてこそ、広報紙を作ることができています。今年も皆さんの笑顔が届けられる広報紙を作りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



**季節のお便り募集**  
住所、氏名(ペンネーム)、電話番号を明記の上、写真や文章を添えて秘書課へ郵送またはメール(hisho@city.mitoyo.lg.jp)でお送りください。  
▶問い合わせ 秘書課 ☎73-3001



山本町で12月に咲いているひまわり畑を見つけました。(高瀬町・松浦礼男さん)

暮らしのエピソードや風景写真、  
広報の感想を募集  
**季節のお便り**